



## 2024年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月14日

上場会社名 株式会社ディ・アイ・システム 上場取引所 東  
コード番号 4421 URL <https://www.di-system.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 長田 光博  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画本部長 (氏名) 大塚 豊 TEL 03 (6821) 6122  
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年9月期第1四半期の連結業績（2023年10月1日～2023年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第1四半期	1,624	11.3	100	△11.0	100	△11.0	66	△11.0
2023年9月期第1四半期	1,459	20.8	112	242.1	112	242.7	74	244.0

(注) 包括利益 2024年9月期第1四半期 65百万円 (△11.4%) 2023年9月期第1四半期 74百万円 (239.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第1四半期	22.80	22.75
2023年9月期第1四半期	25.64	25.58

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年9月期第1四半期	2,808	1,262	45.0
2023年9月期	2,773	1,260	45.5

(参考) 自己資本 2024年9月期第1四半期 1,262百万円 2023年9月期 1,260百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	22.00	22.00
2024年9月期	—	—	—	—	—
2024年9月期（予想）	—	0.00	—	23.00	23.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年9月期の連結業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	3,255	8.6	169	△34.4	168	△34.5	113	△34.1	38.97
通期	6,900	10.6	342	0.4	340	0.4	229	△4.9	78.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年9月期1 Q	3,058,000株	2023年9月期	3,058,000株
----------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2024年9月期1 Q	150,297株	2023年9月期	150,297株
----------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年9月期1 Q	2,907,703株	2023年9月期1 Q	2,906,276株
----------------	------------	----------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	9
3. その他 .....	10
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2023年10月1日から2023年12月31日まで)におけるわが国経済は、インバウンド需要の復調や雇用・所得環境の改善など、緩やかな回復の動きが見られました。一方で、世界的な金融引き締めによる景気の下振れリスクの高まりや国際情勢の不安定化などから、国内外における経済的な見通しは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループの属する情報サービス産業においては、コロナ禍で加速したDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進により、アナログ的な事務作業のデジタル化や、オンプレミスで運用されているレガシーシステムのクラウド化など、業務効率化・企業競争力強化のためのIT投資は旺盛な状況となっております。テレワークやWeb会議の普及等、コロナ禍を通じて加速したデジタルサービスの「新たな価値」が社会的に当たり前となった一方で、企業のDX化の進捗は十分に進んでいるとは言えず、今後、IT企業の役割はますます重要になっていくことが予想されます。経済産業省の「特定サービス産業動態統計調査(2023年11月分速報)」によりますと、情報サービス産業の2023年11月売上高は前年同月比で4.6%増の1兆2,373億円となっており、引き続き、市場全体として拡大傾向に進むと思われまます。また、DX時代の人材戦略としてリスキリングが重要視されており、デジタル技術の力で企業価値を創造できる能力やスキルの再開発が必要となってきております。

このような環境の中、当社グループにおいては、中長期的視点から事業利益の創出に取り組むための新たな3ヶ年計画「中期経営計画(2024年9月期~2026年9月期)」と、中長期ビジョン「Vision2028」(2028年9月期目標:売上高100億円・営業利益10億円)を策定し、元請け案件や受託案件の獲得拡大に対する取り組みや顧客企業のセキュリティ課題解決に対する取り組み、生成系AIや仮想空間を活用した技術開発への取り組み等、各施策を積極的に遂行してまいりました。さらに、当社グループが提供している教育サービス業務で蓄積した研修ノウハウの活用や、社内での技術共有を進めることで、より規模の大きな案件や難易度の高い案件を確保するために必要な技術力の強化、プロジェクトマネージャー(注1)の育成やコンサルティング力の強化を進めてまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,624百万円(対前年同期比11.3%増)となりましたが、福岡オフィスの増床移転(福岡事業所の開設)に加え、採用強化及び社員の待遇面向上に伴う人件費の増加等により、営業利益100百万円(同11.0%減)、経常利益100百万円(同11.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は66百万円(同11.0%減)となりました。

(注1)「プロジェクトマネージャー」とは、プロジェクトの計画、遂行に責任を負うプロジェクトの管理者のことをいいます。

セグメント別の経営成績は、次のとおりです。

なお、各セグメントの業績数値には、セグメント間の内部取引高を含んでおります。

#### (システムインテグレーション事業)

業務用システムの設計・開発及び構築、運用保守の各工程を、当社グループにて提供できる体制(ワンストップ体制)を構築しており、顧客の要望に応じて、全工程の業務サービス、または、工程別の業務サービス提供を行っております。IT通信業・金融業・流通業・医療・官公庁等の幅広い業種に対応しており、業務用アプリケーションの設計開発業務、インフラシステムの設計構築業務、業務用アプリケーション・インフラシステムの運用保守業務等を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、加速化する企業のDX推進を背景に、サーバリプレイス、基幹システムリプレイス、クラウドストレージ導入に伴うデータ移行、標的型メール訓練サービス(注2)などの案件が増加傾向となりました。グループ全体のエンジニア稼働率につきましては、常に100%に近い数字で推移しており、高稼働を維持しております。さらに、ビジネスパートナー(注3)を積極的に活用することで、より多くの案件に対応しております。

当社ホームページへの問い合わせ件数につきましても、引き続き増加傾向となっており、元請け案件の獲得にも繋がっております。特に、楽々WorkflowⅡ(注4)や楽々Framework3(注5)、COMPANY(注6)などの問い合わせが増加傾向となりました。

これらの結果、システムインテグレーション事業の売上高は1,527百万円(前年同期比11.1%増)、セグメント利益につきましても303百万円(同1.2%減)となりました。

- (注2) 「標的型メール訓練サービス」は、株式会社ブロードバンドセキュリティと協業し、提供しているサービスです。
- (注3) 「ビジネスパートナー」とは、外注先企業に在籍しているエンジニアのことをいいます。
- (注4) 「楽々Workflow II」は、本格的なワークフローも簡単・スピーディに実現し、グローバルにも対応した電子承認・電子決裁システムです。(住友電気工業株式会社の登録商標です。)
- (注5) 「楽々Framework 3」は、システム開発の費用・リスクを大幅に削減できる純国産ローコード開発プラットフォームです。(住友電気工業株式会社の登録商標です。)
- (注6) 「COMPANY」はクラウド型統合人事システムで、株式会社Works Human Intelligenceが製造・販売している製品です。

(教育サービス・セキュリティソリューション事業)

当該事業は、自社で開発した商材を基に、IT研修の企画及びコンサルティング、研修プログラムの開発、研修業務を行う教育サービス分野と、セキュリティ製品の開発、販売、導入、保守を行うセキュリティソリューション分野をサービス領域として提供しております。

教育サービス分野については、IT研修の企画及びコンサルティング、研修プログラムの開発、研修実施の各工程を当社グループにて提供できる体制を構築しており、顧客の要望に応じて、全工程の業務サービス、または、工程別の業務サービス提供を行っております。当社連結子会社のアスリーブレインズ株式会社が当該分野を担っております。

当第1四半期連結累計期間においては、新規研修の研究開発を行うとともに、新入社員向け研修の提供により繁忙期となる4月～6月に向けた講師の育成強化を図りました。中堅社員向け研修では、ネットワークやサーバ・クラウド関連研修の受講者数が増加傾向となりました。また、昨年からの提供を開始した「ChatGPT(注7)研修」及び「生成系AIサービス『Google Bard(注8)/Microsoft Bing(注9)』が2時間でまるっとわかる実践セミナー」についても、引き続き好評をいただいております。生成系AIの市場はさらに拡大することが予想されていることから、教育サービス分野にとどまらず、システムインテグレーション事業へ波及する可能性もあり、今後、新しい付加価値を生み出すイノベーションが期待されます。

また、顧客企業においてはDX化のためのIT人材確保や育成が重要になってきているとともに、リスクリングの重要性も叫ばれていることから、当社グループが提供するIT教育サービスの需要は、今後ますます増加していくものと見込んでおります。

セキュリティソリューション分野については、主に、金融機関やクレジットカード会社、保険会社など、監査やセキュリティに対して厳格な業界を対象に、サーバやデータベースを操作したログを取得するセキュリティ製品の開発、販売、導入、保守を行っております。当社連結子会社のウイズ・システムズ株式会社が当該分野を担っております。

自社製品として、重要システムからの情報漏洩リスクを防ぐIT運用統制ソフトウェアツール群「WEEDS Trace」(注10)を販売しており、さまざまな情報システムのログを収集する主要製品をベースに、顧客の目的に応じて、必要な機能やライセンスの提供を行っております。当第1四半期連結累計期間につきましては、公共法人向け及び地方銀行向けのライセンス販売が好調となりました。

これらの結果、教育サービス・セキュリティソリューション事業の売上高は104百万円(前年同期比20.5%増)、セグメント利益につきましては37百万円(同2.5%増)となりました。

- (注7) 「ChatGPT」は、アメリカの人工知能研究所「OpenAI」が開発したAIチャットボットです。
- (注8) 「Google Bard」は、米Googleが提供する生成系AIです。
- (注9) 「Microsoft Bing」は、米Microsoftが提供する生成系AIです。
- (注10) 「WEEDS Trace」は、当社連結子会社のウイズ・システムズ株式会社が企画・開発した特権IDの管理・重要情報保護のためのセキュリティソフトウェア製品です。

(2) 財政状態の分析

①流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は2,112百万円となり、前連結会計年度末に比べ55百万円増加いたしました。これは、主に現金及び預金が102百万円増加した一方、売掛金及び契約資産が43百万円減少したこと等によるものであります。

②固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は696百万円となり、前連結会計年度末に比べ19百万円減少いたしました。これは、主に投資その他の資産のその他が16百万円増加した一方、繰延税金資産が32百万円減少したこと等によるものであります。

③流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,255百万円となり、前連結会計年度末に比べ38百万円増加いたしました。これは、主に買掛金が22百万円、短期借入金が200百万円増加した一方、未払法人税等が75百万円、賞与引当金が141百万円減少したこと等によるものであります。

④固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は291百万円となり、前連結会計年度末に比べ4百万円減少いたしました。これは、主に長期借入金が16百万円減少した一方、退職給付に係る負債が9百万円増加したこと等によるものであります。

⑤純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は1,262百万円となり、前連結会計年度末に比べ1百万円増加いたしました。これは、主に利益剰余金が2百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月期の連結業績予想については、2023年11月14日の「2023年9月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予測に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,104,251	1,206,848
売掛金及び契約資産	829,866	786,113
商品	59	8,474
仕掛品	9,949	13,701
その他	112,721	97,135
流動資産合計	2,056,848	2,112,274
固定資産		
有形固定資産	131,328	131,655
無形固定資産		
のれん	203,377	197,410
その他	25,219	27,074
無形固定資産合計	228,596	224,485
投資その他の資産		
繰延税金資産	185,920	153,060
その他	170,654	187,438
投資その他の資産合計	356,575	340,499
固定資産合計	716,500	696,640
資産合計	2,773,349	2,808,914
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	200,184	223,015
短期借入金	—	200,000
1年内返済予定の長期借入金	66,620	66,620
未払費用	186,325	199,350
未払法人税等	83,296	7,363
契約負債	193,384	185,182
賞与引当金	254,610	112,730
その他	232,433	260,825
流動負債合計	1,216,855	1,255,088
固定負債		
長期借入金	58,430	41,775
退職給付に係る負債	237,235	246,658
その他	—	2,717
固定負債合計	295,665	291,150
負債合計	1,512,521	1,546,239
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	291,390	291,390
資本剰余金	215,390	215,390
利益剰余金	876,261	878,598
自己株式	△134,863	△134,863
株主資本合計	1,248,178	1,250,515
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	12,650	12,160
その他の包括利益累計額合計	12,650	12,160
純資産合計	1,260,828	1,262,675
負債純資産合計	2,773,349	2,808,914

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
売上高	1,459,592	1,624,610
売上原価	1,118,175	1,290,731
売上総利益	341,416	333,879
販売費及び一般管理費	228,496	233,400
営業利益	112,920	100,478
営業外収益		
受取利息	—	2
営業外収益合計	—	2
営業外費用		
支払利息	330	228
営業外費用合計	330	228
経常利益	112,589	100,252
税金等調整前四半期純利益	112,589	100,252
法人税、住民税及び事業税	725	869
法人税等調整額	37,344	33,076
法人税等合計	38,069	33,945
四半期純利益	74,520	66,306
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	74,520	66,306



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	74,520	66,306
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△250	△490
その他の包括利益合計	△250	△490
四半期包括利益	74,269	65,816
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	74,269	65,816
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	システムインテグレーション事業	教育サービス・セキュリティソリューション事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	1,375,351	84,240	1,459,592
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	2,700	2,700
計	1,375,351	86,940	1,462,292
セグメント利益	307,553	36,563	344,116

2. 報告セグメント合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位：千円)

売上高	金額
報告セグメント計	1,462,292
調整額 (セグメント間取引消去)	△2,700
四半期連結財務諸表の売上高	1,459,592

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	344,116
調整額 (セグメント間取引消去)	△2,700
販売費及び一般管理費	△228,496
四半期連結財務諸表の営業利益	112,920

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	システムインテグレーション事業	教育サービス・セキュリティソリューション事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	1,522,562	102,047	1,624,610
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,805	2,700	7,505
計	1,527,367	104,747	1,632,115
セグメント利益	303,910	37,473	341,384

2. 報告セグメント合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

売上高	金額
報告セグメント計	1,632,115
調整額（セグメント間取引消去）	△7,505
四半期連結財務諸表の売上高	1,624,610

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	341,384
調整額（セグメント間取引消去）	△7,505
販売費及び一般管理費	△233,400
四半期連結財務諸表の営業利益	100,478

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。